

46 貞淑な不倫って…?!

まずはおめでとうございます！ 監訳な
 かった『世界の映画ロケ地大辞典』のご出
 版。これ、映画マニアにはこたえられない
 本ですね。キューブリックが「ロリータ」
 をアメリカで撮影できなかったためにロケ
 地をイギリスへ移し、そのまま住みついで
 しまった……だなんて。ロケ地情報もさる
 ことながら、映画のひとこと紹介にさらり
 と毒があるのが笑えます。「ミセス・ダウ
 ト」を「本当に大ヒットしてしまったセン
 チメンタルで粗悪なコメディ」ってそこま
 で言って。マニアックでシニカルな、イギ
 リス人著者ならではのチクチクぶり。
 デイヴィッド・リーンの「逢びき」の項
 目もさりげなくおかしい。「ハワードとジ
 ヨンソンが人目を忍んで貞淑な逢びきをす
 る…」ってなにそれ、「貞淑な逢びき」つ
 て!? イギリスの代表的不倫映画は、貞淑。
 うなずけてしまうところがまたヘン。
 そうそう、前回「フランス映画の恋愛は
 アメリカ映画でエンドマークが出る場所
 から始まる」って書いてらっしゃいました
 が、それ読んでF・カスターローザってフ
 ランス女性を書いた「恋（フラート）の歴
 史」っていう本を思い出しました。フラ
 ートっていうのはセックスに至らないちゃ

ドーバー 越えて

往復連載

齋藤敦子
中野香織



「逢びき」(45年・英)



服飾史家である中野香織さんと、映画評論家で字幕翻訳家の齋藤敦子さんの往復書簡のコラム。ファッション誌の映画コラムニストとフランス映画社宣伝部員として出会った中野さんと齋藤さんは、以来十数年、友情を育む。この連載では、イギリス文化とフランス映画という専門分野をベースに映画談義が交わされる。

オブジェ制作=井上陽子

つきのことですが、これを発達させたのは
 なんとイギリス人やアメリカ人なんだつ
 て！ 19世紀の前半までは、フランス人が
 人前でキスをするなんてとんでもないこと
 だったらしいよ。

え？ と一瞬混乱しますが、プロテスタ
 ントのイギリス人やアメリカ人がフラート
 を認めているのは、セックスさえしなければ
 ばなにしてみてもいい、ってことだったみたい
 フラートしつつも理性の力でもって最後の
 一線の寸前で止める。あ、そうか。それが
 すなわち「貞淑な逢びき」になったのね。

対するカトリックのフランス人はそんな
 時に理性なんか働かれないじゃんとなつ
 さり人間の弱さを認めてるから、若い娘に
 は一切を禁止する。で、結婚後にはじめて
 恋愛のある生活がスタートするわけですが、
 無知だった自分にひどい思いをさせた夫は
 その対象にはならず……。

そんな伝統的な「結婚後に始まる婚外恋
 愛」文化も温存しつつ、英米から輸入した
 フラート文化を独自に発展させてフレンチ
 キスなる濃厚なお楽しみまで作り上げてし
 まったフランス人って、あっぱれ。

などと西洋の複雑怪奇な恋愛文化を考え
 たあとで、おすすめいただいた「69（シッ
 クステイナイン）」を見てきました。妻夫
 木くんとその彼女はキスの話はするけど、
 直前で止めるのね。フラート以前の日本の
 青春。なぜか少しほっとしたりして。